

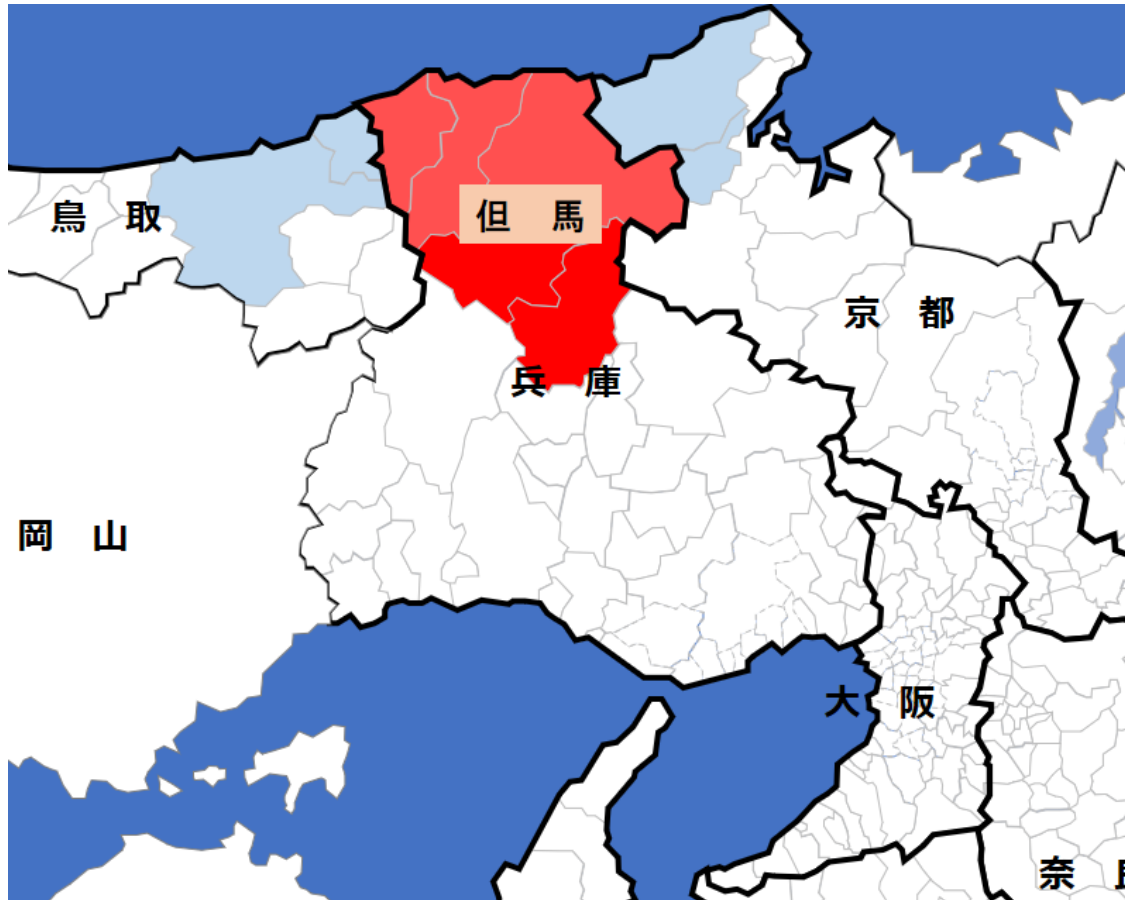


コウノトリ育むお米の取り組み

～コウノトリの野生復帰と有機栽培による米づくり～

たじま農業協同組合
代表理事専務 山下 正明

JAたじまの概要



主な農畜産物

◆ 米

- ◆ 朝倉さんしょ
- ◆ 岩津ねぎ
- ◆ だいこん
- ◆ ほうれんそう
- ◆ 小豆

◆ ピーマン

◆ 但馬牛

■ 但馬地域の概況

- 兵庫県の北部
但馬地域（3市2町）を管内
- 県面積の約1/4
（東京都の総面積に匹敵）
- 人口 約15万1千人(R5.4.1)
（県人口の約3%）

■ JAたじまの概況(R5.3.31)

- 組合員数 46,378人
（うち正20,272人）
- 貯金 3,732億
- 貸出金 568億
- 共済 9,538億
- 受託販売 57億
- 購買 28億
- 役員 理事 29名
監事 7名
- 職員数 702名



山陰海岸ジオパーク



城崎温泉(豊岡市)



玄武洞(豊岡市)



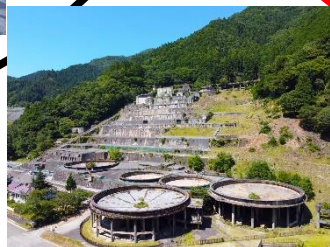
出石そば(豊岡市)



湯村温泉(新温泉町)



スキー場(豊岡市、香美町、養父市)



神子畑・明延鉱山(養父市、朝来市)



竹田城(朝来市)

コウノトリ



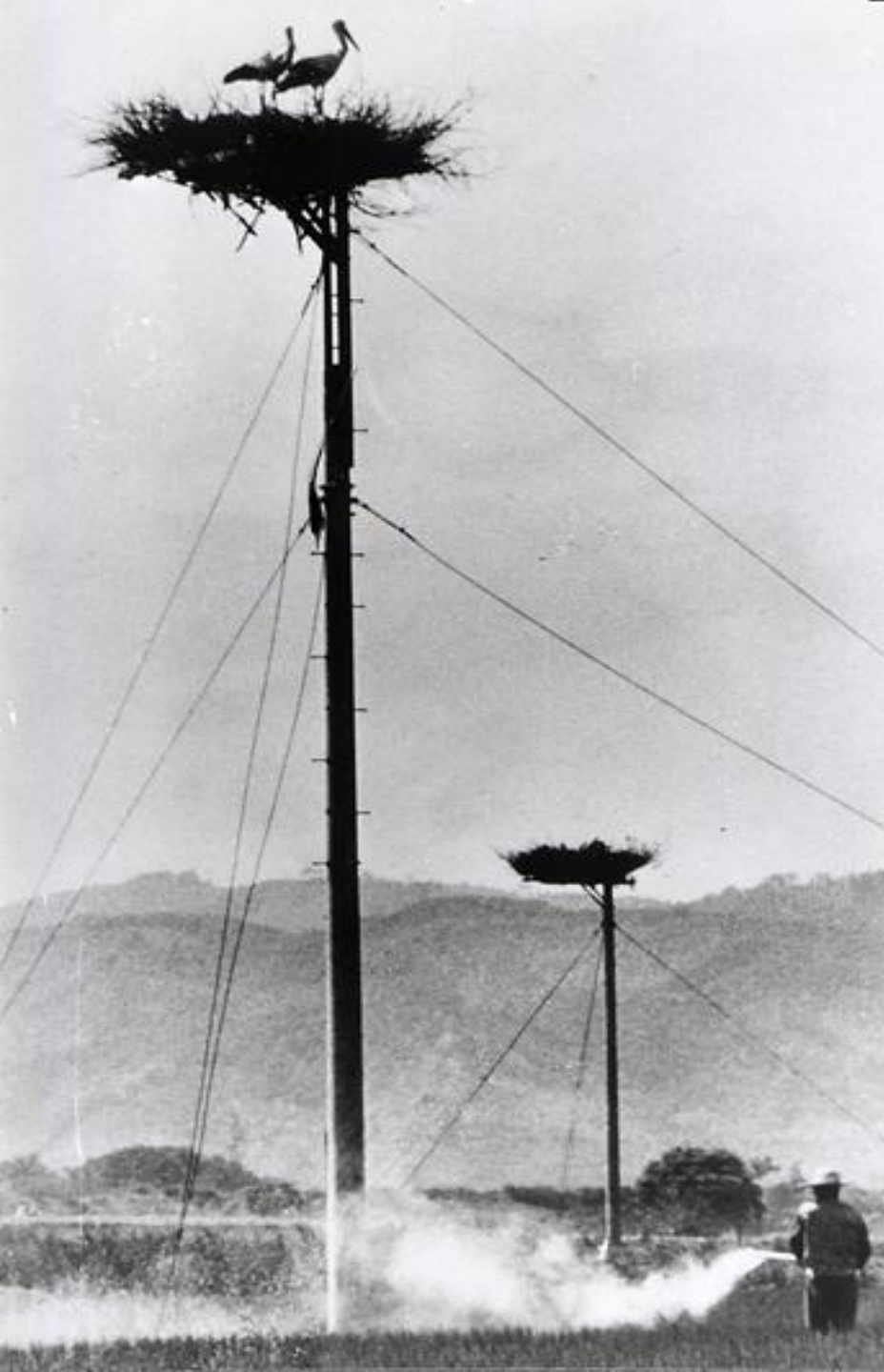
- 全長：約110cm
- 翼開長：180～200cm
- 体羽：白色
- 風切り羽：黒色
- 嘴：黒色、約25cm
- 目の周囲：赤色
- 脚：赤色

餌（水田および河川の）

- どじょう
- ふな
- バッタ

古くから、コウノトリと一緒にみんなで暮らしていた





昭和34年

巢塔の下で

農薬が散布される様子

野生のコウノトリは1971年（昭和46年）に**絶滅**

《 最後の生息地が豊岡 》

絶滅の理由

明治時代以降の乱獲

経済発展に伴う生息地の開発・汚染の拡大

農薬を大量使用する農業の拡大

コウノトリの絶滅要因を真摯に受止め慣行農法を見直す

農薬や化学肥料の削減

生き物を増やす工夫

虫の勉強

悪い虫・ただの虫・
よい虫を見分ける

↓
生態系の大切さ

病気の勉強

適正な施肥量
植付け密度を知る

↓
土作りの大切さ

生き物の勉強

微生物や水生生物
の働きを知る

↓
水管理の大切さ

雑草の勉強

雑草の特性
を知る

↓
抑草技術の習得

**水田環境の
勉強**

↓
魚道・逃げ場の
設置

自分達が実践できる体系→定義や要件を整理

農法確立に向けた試行錯誤



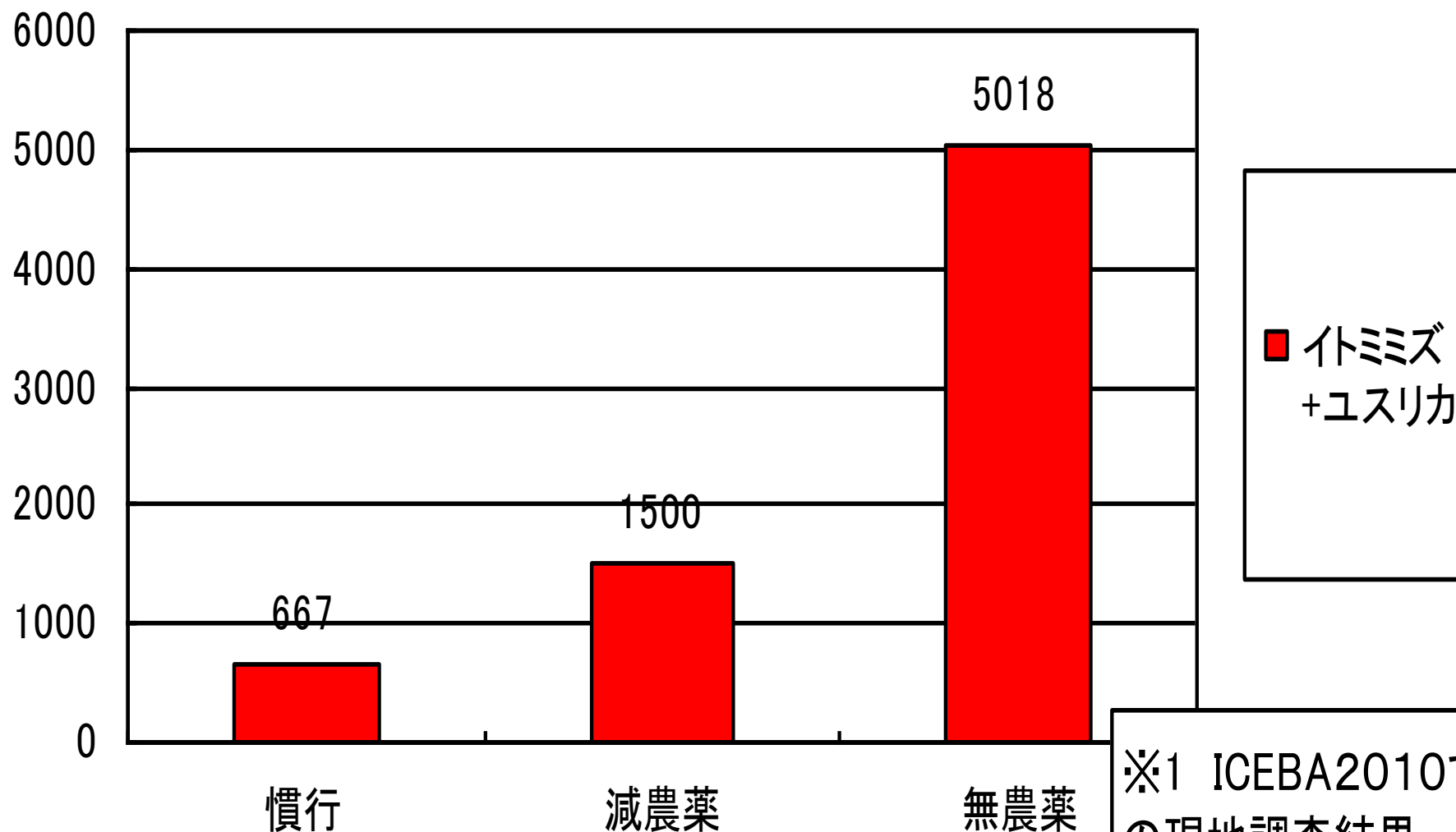
有機育苗培土の試験



不耕起栽培に挑戦

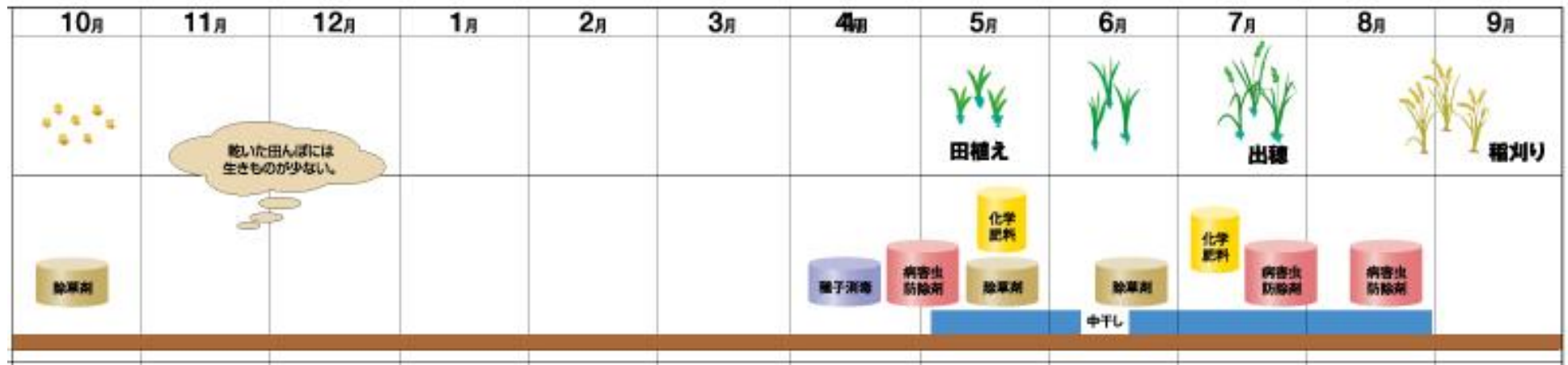
	共通事項	努力事項
環境配慮	農薬 化学肥料 温湯消毒 生き物調査 ・栽培期間中不使用もしくは7.5割減 （使用農薬は普通物魚毒性A類） ・栽培期間中不使用	・魚道、生き物の逃げ場の設置 ・抑草技術の導入（米糠、その他）
水管理	深水管理 早期湛水 中干し延期 冬期湛水	
資源循環	堆肥・地元有機資材の活用	
その他	ブランドの取得（有機JAS、ひょうご安心ブランド、コウノトリの舞、コウノトリの贈り物）	

1㎡あたりのイトミミズとユスリカの生息数(匹)※1



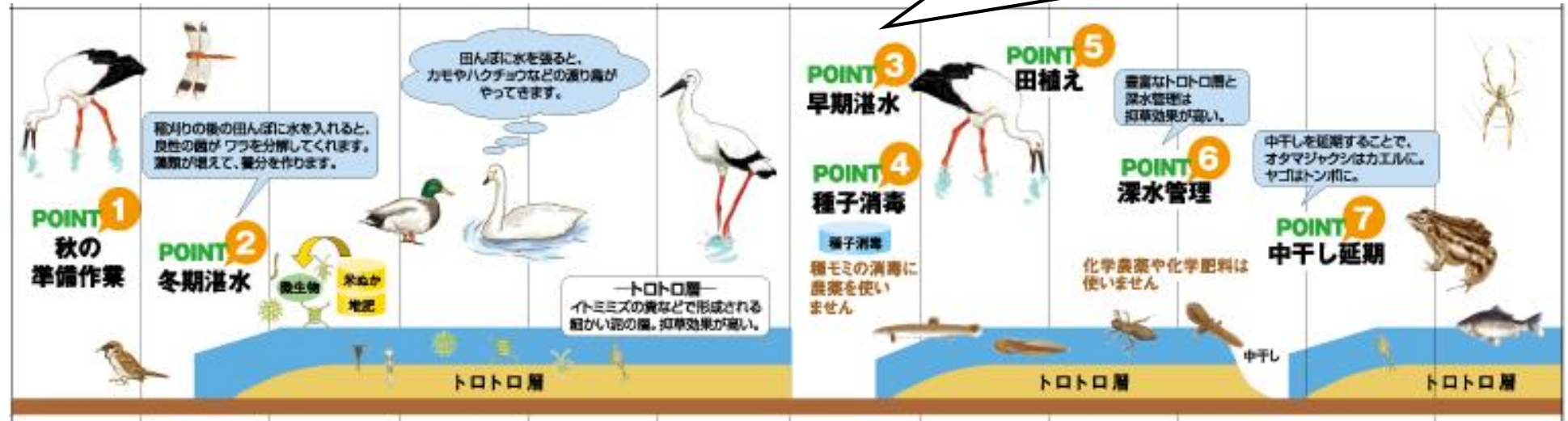
※1 ICEBA2010での現地調査結果

一般のお米



コウノトリ育むお米

慣行栽培と比べ、水田に水がある期間が圧倒的に多い



コウノトリ育む農法の特徴

コウノトリと共存していくため、農薬の不使用や冬季湛水の実施など、環境への負荷を軽減した

コウノトリ 育む農法の1年

1年を通じコウノトリのえさとなる生きものをどのように育てているのか見てみましょう。



春は早くから水を張り生きもののいっぱい

少しでも生きものをふやすために田植えの1ヶ月前から水を張ります。それによりコウノトリの餌となるドジョウやカエルがふえていきます。

夏は生きものの成長に合わせた水管理

オタマジャクシがカエルに、また、ヤゴが羽化するまで田んぼの水を落としません。水を落とした時に小魚が逃げこめる場所づくりも行っています。

秋の稲刈り後米ぬかをまいて土作り

イネ刈りが終わると堆肥や米ぬかをまいて、水をためる準備をします。稲刈り後、隠れ家をなくしたバッタなどを求めコウノトリ以外の鳥もやってきます。

冬も水を張り鳥の憩いの場に

冬にも水を張ることで、イトミミズやプランクトンなどの小さな生き物がふえます。また、冬鳥たちの憩いの場にもなっています。

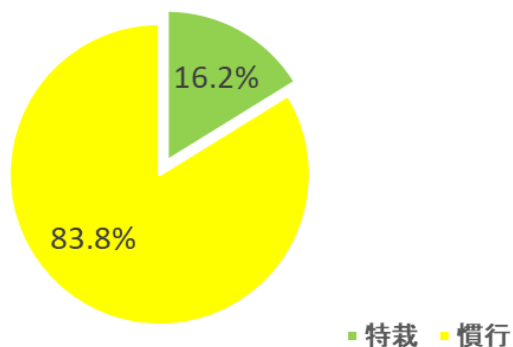


安全なお米と生き物を 同時に育む農法

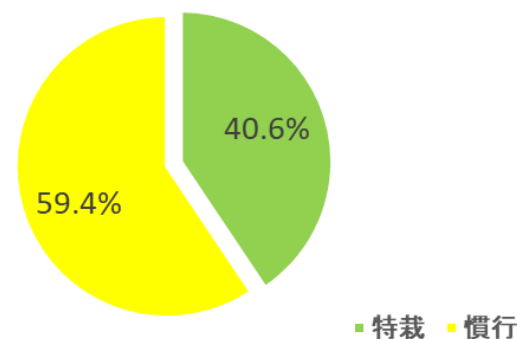
おいしいお米と多様な生き物を育み、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指すための農法

JAたじま集荷数量 335,665袋
うち特別栽培米 144,578袋（約40%） 2020年度

兵庫県全JA特裁米シェア



JAたじま特裁米シェア



但馬で占める特別栽培米のシェアは大きい

但馬の「特徴を活かす」米販売戦略

コシヒカリを
栽培方法・栽培地域で
細かく区分して
販売している。





コウノトリ育むお米 海外への販路拡大の取組



①ミラノ万博出展



②ドバイ・ガルフード出展



③シンガポール販促

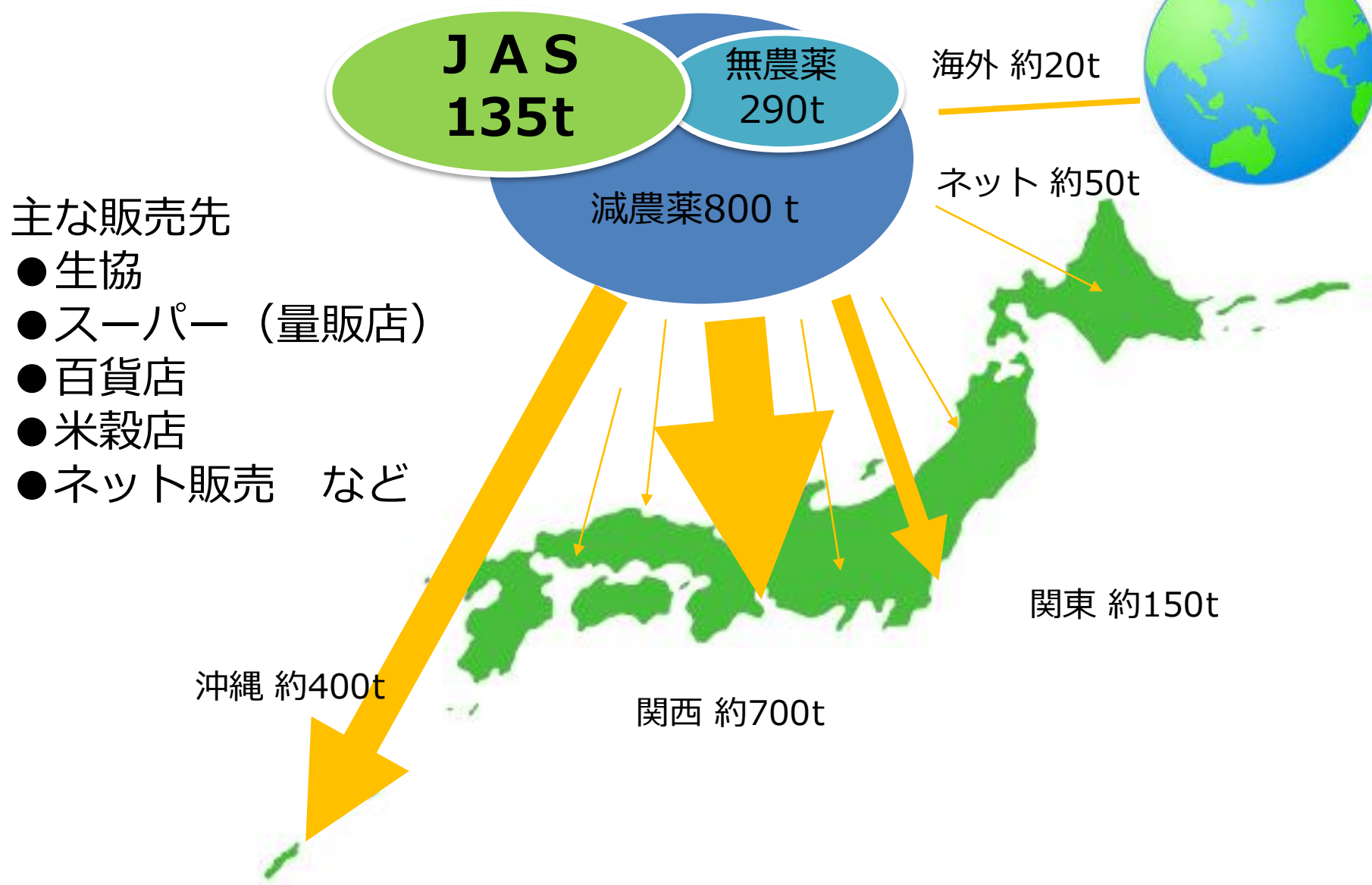


④香港高級スーパー販促



⑤ロサンゼルス商談会出展

コウノトリ育むお米の販売状況（国内）



コウノトリ育むお米の販売状況（海外）



この取り組みへの共感は海外でも広がっています！

JAたじま

消費者・他団体との交流



コロナ禍に於けるのオンライン消費者交流会

消費者・他団体との交流



香港日本人学校で
オンライン出前授業

東京オリンピック・パラリンピックを目指した取り組み



グローバルギャップ（G-GAP）の団体認証取得

東京オリンピックを契機として高まることが見込まれる「食の国際基準」への対応

東京オリンピック採用を目指すことによる産地の活性化・生産者の士気向上

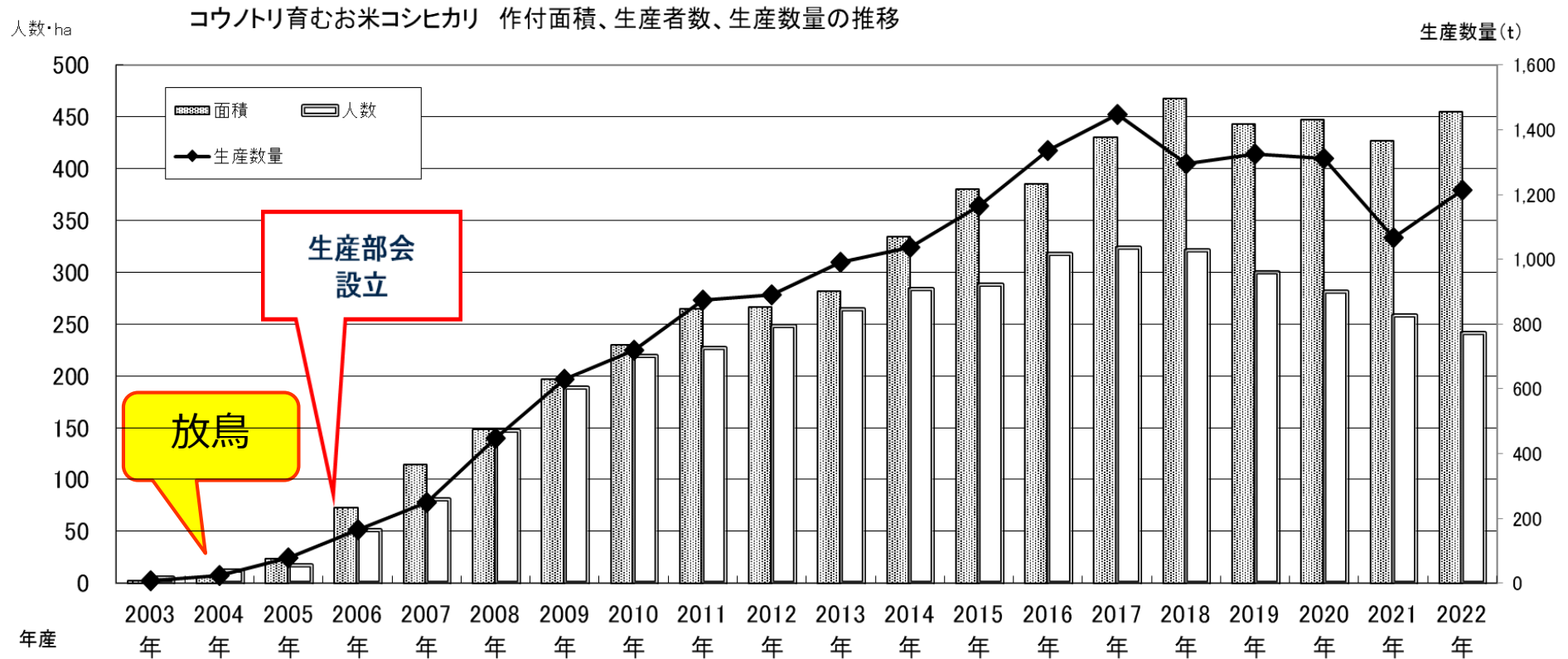
平成30年1月グローバルギャップ団体認証取得



ボート日本代表へコウノトリ育むお寄贈



- ・ 2005年、豊岡市でコウノトリの放鳥（5羽）を実施
- ・ 2006年には生産部会が設立
- ・ 現在では部会員約250名、500haに拡大（2023年3月現在※面積全品種合計）



現在の課題

➤ 農家の高齢化

➤ 担い手への農地の集約

手間の問題

今後の課題

➤ みどり戦略

競合の問題

持続可能な取り組みに向けて生産者・消費者の理解が必要

手間の問題

- 省力化に向けた取り組み
 - ① 苗の供給
育苗にかかる手間を削減
 - ② カントリーエレベータの新設
個別乾燥に対応することで多品種の荷受けが可能に



こうのとりのカントリーエレベーター

農家の負担を減らすことで生産拡大へつなげる

競合の問題

- 産地と販売先・消費者の交流を深め、信頼をより強固にしていく

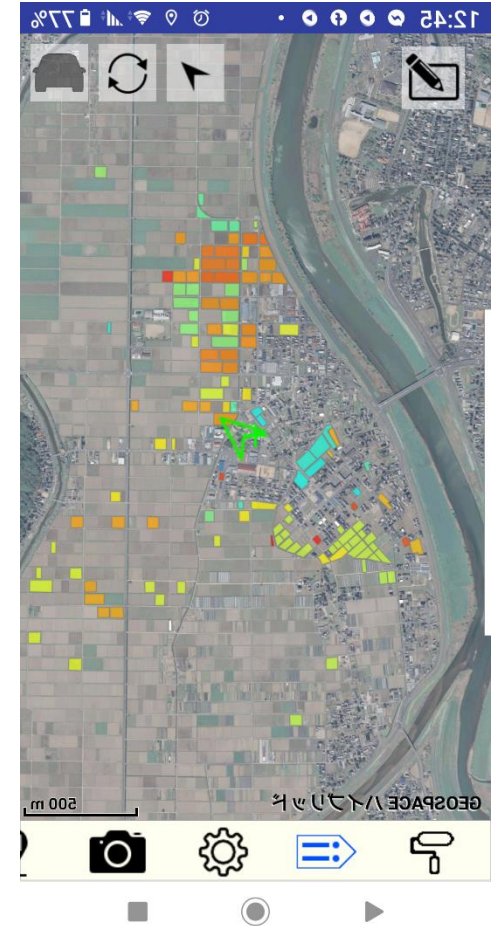
販売先や消費者から求められるものに対応していく



アイガモロボット
試験導入



スマート農業機械のシェア
リング
(写真はリモコン草刈機)



Z-GISの普及拡大









豊岡市内のコウノトリ育むお米について
学習していた生徒さんから
「コウノトリ育むお米を給食に使って
ください！」と提案



2017年から豊岡市内の学校給食は
すべてコウノトリ育むお米（減）に！
こどもたちに安心・安全なお米の供給

みどり戦略 + オーガニックビレッジ宣言（豊岡市）

豊岡市内の学校給食でコウノトリ育むお米（無農薬タイプ）を使用する方向性



課題

コウノトリ育むお米（無農薬タイプ）
「コシヒカリ」では単価が合わない

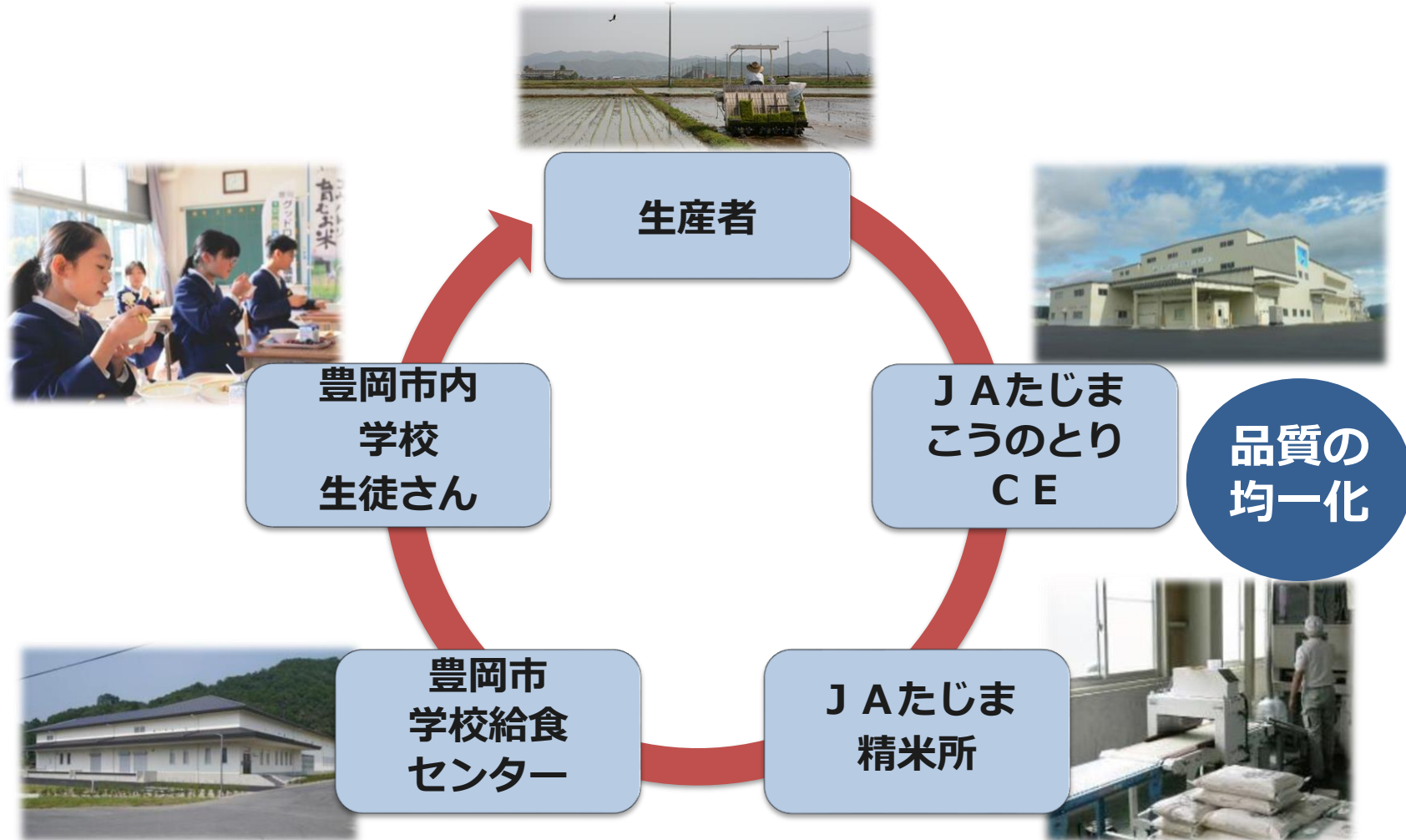
解決策

コウノトリ育むお米（無農薬タイプ）
「つきあかり」に切替

→ 給食費の値上げとならない形で提供可能！



全国初！行先や工程が見える有機農業の取組みーコウノトリ育むお米 学校給食へのチャレンジ 2023年ー



生産者・JA・行政の三位一体の取組み



豊岡市
学校給食センターとの
打合せや商談窓口
給食費の助成
生産者への財政支援

兵庫県
栽培技術指導
栽培試験・磨作成
作付誘導・周知

生産者
コウノトリ育む
お米生産部会

JA
部会組織の運営
営農指導・作付誘導
生産物の乾燥・調製
生産物の販売

**JA兵庫
中央会**
スマート農業の
助成・技術検証

JA兵庫中央会 無農薬つきあかり 栽培こよみ 令和5年

栽培時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
播種												
育苗												
移植												
収穫												

※栽培こよみは、地域の気象条件により変わります。

品種	播種	育苗	移植	収穫
無農薬つきあかり	4月10日	5月10日	6月10日	9月10日

※播種・育苗・移植・収穫の時期は、地域の気象条件により変わります。



- かけがえのない **日本の食糧・農業の次世代への継承**
- **自然環境と生きものが共生**できる農業の振興
- **子どもたちに安心して食べさせられる食**の提供



